西東京市市民協働推進センター

令和２年度第７回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和３年３月16日(火)午後７時00分～８時00分
■開催場所：オンライン開催（Zoom）
■出席委員：海老澤委員、熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤委員、柴委員、樋口委員、久松委員、平林委員、星委員、馬渕委員、三好委員、森谷委員<以上13名、五十音順>
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、利光地域福祉推進係長、塚澤主任

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、1-2月の主事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談に対する質疑応答とした。

2.３月以降の実施事業について

事務局より、１月以降の実施事業について質疑応答とした。

委　員：円卓会議でこのテーマを選んだ経緯を聞きたい。

事務局：今から７～８年前の話だが、学童クラブの指導員から子どもたちへLGBTQについてどう対応していけばよいかと投げかけられていたので、今回円卓会議のテーマとして取り上げた。

委　員：子どものLGBTQ問題は今いろいろなところから寄せられている。学校でも先生が自分の教えている子どもたちに関係することなので、授業で取り上げてみたいなど動きがある。子どもたちや学校等関係する方々にも関心を寄せてもらえるとよい。

委　員：この地域の子育て支援に関わっている方等いろいろな立場の関係者の方々を集めて話し合いができる事はありがたい。自分の子ども時代の経験などを通しながら、この街で何ができそうかというキックオフになればよいと思う。当事者だけだと支援の幅が限られてしまうので、今、子育てをしている父母、子育て支援の方、地域の方たちも含めて緩やかにつながっていければよいと考えている。

3. 来年度の運営委員会委員について

事務局より、令和３年度西東京市民協働推進センター運営委員会委員について説明があった。

委員長：６月まで委員長の任期が伸びたことについて補足説明をお願いする。

事務局：委員長の任期が６月までと記載しているが、社会福祉法の改正により、理事の任期が変更になった。運営委員長は担当理事が務めるため、定時評議員会が開催される６月まで延長となったことをご承知おきください。

委員長：報告に対して了承ということで進める。

4. 来年度の事業計画及び予算について

事務局より、令和３年度西東京市民協働推進センター事業計画・予算（案）について説明があった。

委　員：予算の人件費はできるだけ合わせた方がよいと思うが、その分事業費が圧迫されるのは課題だ。社協と一体的に運営を考えていく中で、事業を一緒に進めていくこともあるので、必要な費用は負担できるところをお互いカバーし合って進めていくことが重要だ。センターではないところでカバーできる工夫があるとよい。委託費が何とかなって欲しいという部分もあるが、ぜひ運営の面でもご配慮いただきたい。

委　員：活動計画案はコアになる部分をしっかり残すことを重視して計画したと推測できるが、削られた項目が、これまでの取り組みをベースにしながら、ゆめこらぼの独自性を出していこうと動き始めていた部分だ。長期的に考えるとその部分は、市民活動を推進するうえで大事な視点なので、予算の有無にかかわらずどういう形で具現化していくか、というところに取り組んでいく必要がある。社協とゆめこらぼだけで完結するのではなく、ゆめこらぼは市民活動の中間支援組織なので、削られたコンセプトを西東京の市民活動でどうやって具体化していくのか。裾野を広げていきながら、また、負担をシェアしながら実現していくまちづくりや市民活動の助成に、ゆめこらぼが活動の場を見出していくという形になればよい。削ったから無いですではなくスピリッツとしては保持して欲しい。

事務局：次年度に関してはボランティアセンターとの連携など、社協と一緒に動いていくことで、削られた予算を埋めあって運営していきたい。

委員長：社協の理事会に出席したが、全体的に予算は減少傾向にあったように感じている。ゆめこらぼならではの独自性の部分では、ぜひ今後残っていくような事業計画をお願いしたい。

委　員：多者協働のまちづくりについてだが、今までの地域協力ネットワークも多者協働だと思うが、多者の範囲が変わったのか。また、協働というところで新しく考えている構想があるのか。

事務局：漠然としたイメージで記載している。今後、仕様書の内容も視野に入れながら具体的に考えていきたい。

委　員：予算積算資料については昨年度など比較できる数字を併記して欲しい。口頭のみでは比較が難しいので、予算の削減が理解しやすいような資料をお願いしたい。

委員長：厳しい財源の中で、どのあたりを一番削ったのか。

事務局：事業費のランニングコストが多い。資料についてだが、事業費減額は今年度初めての事だ。

事務局：数字については厳しい財政の中でどうにかたどり着いたものなので理解して欲しい。

委　員：委託だから必要な費用は行政が持つのは当然なことだが、市民が出し合ってでもやりたい事業があるときに費用がたりないので実施できないのは結構なハードルだ。委託といえども事業をやるだけではなく、やりたい事業をやるときに資金をつくることは本来ならできる。市に費用を出せない状況があるなら、その分自主的にやりたい市民が、少しずつでも出し合って参加してもらうことが出来るようになるのは大切なことだ。次年度実施するには課題があるとしても、市民、企業、商店などに協力してもらうなどの可能性を探って欲しい。必要なら運営委員も協力して作っていくなど、それこそが協働だと思う。可能性、余地を考えて欲しい。

委　員：例えば協働の形でクラウドファンディングなども中間支援セクターとしてできないのであれば、ノウハウを勉強してもらい市民団体へ方法の選択肢の一つとして発信してもらいたい。そのような仕組みを利用した事業も増えてきていると思う。コミュニケーションや協働の在り方も変わってきているので、次年度、情報収集などからでも始めてもらえば心強い。

委員長：意見を反映してもらいたい。

事務局より、令和３年度西東京市民協働推進センター活動計画（案）について説明があった。

事務局：事業と予算だが、行政の財政が厳しいのは承知している。しかし、西東京市にとって必要な事業には予算もそうだが、人のパワー等を削減するべきではないと考えている。円卓会議は次年度にはないが、やり方を変えたとしても続けていきたいという思いはある。どういう形でできるかをスタッフと相談しながら事業として続け、最終的には市民に返していく物だと考えている。やはり大切な事業だったと行政に現場を訴えていきたいと考えている。

委員長：是非頑張ってもらいたい。以上を踏まえたうえで、報告事項は承認とする。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. 今年度の報告事業について

事務局より、令和２年度西東京市市民協働推進センター各事業の成果と課題(案)について説明があった。

委　員：民間企業なので、難しいと感じている。困っている人がいっぱいいるのに歳入が少ないから事業数が減る、やりたいことがあるのに予算が足りないので出来ない。自分たち以外の外的要因で事業が出来ないというのはとても大変だと感じている。

委　員：この一年はいろいろなことを模索しながら活動してきたと感じた。研修会への参加だが、来年度の計画の中にもあるが、Zoom の使い方なども含まれていたのか。次年度の研修も決まっているのか。

事務局：いろいろなところから様々な情報がくる中で、こちらで西東京市の市民に必要なものをキャッチして取り組むので、計画が立てられるようで立てられない面がある。

委　員：このフォーマットで伝えられることは限りがある。活動している方や市民が、今年一番大きかったのはコロナの事だ。それに対してどう寄り添ったり、取り組んできたのかが大切だ。それを踏まえて歩みを止めないでどう活動してきたか。市民活動と一緒にやってきた中でどう悩みや新型コロナに対応する取り組み、寄せられた相談や声等を記録として残して欲しい。

事務局：自分たちの励みにもなるので、是非記録として残していきたい。

委　員：前年度との比較の項目の内容が、前年度とコロナ禍中の対比で書かれていることが多いと思うが、前年度のコロナ前と現在を比較する必要があるのではないか。コロナ禍に対しては別添でまとめるとともに、項目に書かれた問いの応答に対しては、取り組みを正当に評価する必要があるのではないか。

事務局：対応したい。

2. 担当理事選任について

事務局より、ボランティア・市民活動推進事業担当理事候補者の選出について説明があった。

委員長：担当理事の候補者の選出をしたい。立候補いただける方挙手をお願いする。

委　員：経験不足だが、西東京市の協働推進のために微力ながら協力させていただきたい。

委員長：久松委員が担当理事に立候補ということで、全員一致で承認する。

事務局：久松委員を選任理事として手続きを進める。

4. そ の 他

1.西東京ボランティア・市民活動センターとの一体的運営について

事務局より、西東京ボランティア・市民活動センターとの一体的運営について説明があった。

委　員：継続という形で検討するという理解で良いか。

事務局：そうだ。

委員長：一体的運営については是非進めて欲しい。

2. 次回運営委員会日程について

日時：4 月 20 日（火）19 時～21 時

会場：オンライン開催（Zoom）